東京東村山ロータリークラブ　国際ロータリー第2580地区

週報

国際ロータリー
テーマ

奉仕を通じて
平和を

Vol.46　第2256回例会　2013.3.28

今年度会長テーマ　和で輪を広げ、前に進もう

■司会：
野澤例会運営
副委員長

■点鐘：中丸会長

■合唱：ロータリーソング
「それでこそロータリー」

◆ソングリーダー：
村田会員

■お客様紹介：
當麻パスト会長

◆ゲスト：
卓話者　萩本功様

■会長報告　中丸会長

皆様こんにちは。本日は萩本様ようこそおいで下さいました。後ほどの卓話楽しみにしておりますので、宜しくお願い致します。

さて、先週の土曜日23日に歩こう会が開催されました。私は残念ながら所要により参加出来ませんでしたが、天候にも恵まれて桜も開花して楽しい歩こう会になったのではないかと思います。次回は御岳山での開催とお聞きしました。次回は是非参加させていただきたく思っています。

次に先週と今週にＲＣのお役目とは違いますが、中学校と小学校の卒業式に自治会長として出席して来ました。最近の卒業式は私の時代と違い、一人ひとり将来の目標を話したり、どちらかと言うと演劇風の卒業式でしたが大変良い卒業式を経験し、卒業生にがんばれと心の中でエールを送って来ました。

話は変わりますが、昨日東村山市ゴルフ連盟春季大会が開催され参加してまいりました。当クラブからも野澤会員、田中会員、荻野会員と入会予定者の清水会員が参加されました。野澤会員、司会進行等をされてご苦労様でした。皆様の成績は如何だったのでしょうか。

最後になりますが、八坂神社の向かい側の街路やさくら通りの桜が今満開です。皆様も普段は事務所等屋内で過ごされることも多いと思いますが、快適な気候のもと桜を見ながら、健康の為にも散歩などされては如何でしょうか。

■幹事報告　石山副幹事

■ガバナー事務所：
・2013～14年度資料の受理
①ロン・バードンＲＩ会長の略歴
②吉田建二ガバナー略歴

■例会日／毎週木曜日　12:30～13:30
■例会場／八坂神社　社務所
〒189-0013　東京都東村山市栄町3-35-1

■クラブ管理委員会／石山　敬
■事務所／〒189-0013
東京都東村山市栄町3-5-1ハイツむさしの101
TEL　042-393-7500　　FAX　042-395-1166

・(国際大会)日本人親善朝食会についてのお願い
申し込み多数の為、締切日の変更
4月1日→3月28日(木)15:00まで

■国際ロータリー日本事務局：
2013年4月のロータリーレート　1ドル＝94円

■東村山消防少年団：
平成25年度東村山消防少年団入卒団式の実施について
2013年4月21日(日)　13:30～
於　東村山消防署地下会議室

■スポーツ祭東京2013　東村山市実行委員会
スポーツ祭東京2013東村山市実行委員会第4回総会について
2013年4月20日(土)　14:00～
市民センター2階

■新世代奉仕委員会：
在京・地区新世代奉仕包括成果発表会の案内について
2013年5月12日(日)　14:00～17:00
於　銀座フェニックスプラザ

■例会変更：
・東京秋川ＲＣ
4/18(木)→4/20(土)創立記念事業　他

・東京福生中央ＲＣ
4/10(水)→4/26(金)東京秋川ＲＣ記念式典に変更

■出席報告　戸澤例会運営委員

在籍会員数	出　席	免　除	欠　席	出席率
29	21	0	6	77.78

■前々回メークアップ修正後前々会欠席：0名
■前々回出席率メークアップ修正後：100％
■前々会メークアップ者：
飯田会員：京都西ＲＣ
田中会員：立川ＲＣ

■ニコニコＢＯＸ　山宮クラブ管理会員

■皆出席：
戸澤会員(19回目)
石山会員(6回目)

◆中丸会長、赤木幹事：
昨日の東村山市ゴルフ連盟春季大会ご参加の皆様、寒い中ご苦労様でした。本日は萩本功様ようこそおいで下さいました。卓話楽しみにしています。よろしくお願い申し上げます。

◆野澤会員、野村(高)会員：
防火管理研員会永年勤続表彰として、野澤会員、防火管理者として野村会員が東京都消防総監賞をいただきました。

◆山本会員、野村(高)会員：
歩こう会の写真ありがとうございました。とても楽しい一日でした。皆様も次回は是非参加してください。

◆野村(裕)会員：
小町様写真ありがとうございました。3/23の歩こう会は、八国山、荒幡富士と気持ち良く歩く事が出来ました。次回は御嶽山6/8と決まりました。相羽様よろしくお願いします。

本日のニコニコ合計：　24,000円
累　　計　：1,072,100円

■委員長報告

■山本地区オン・ツー・リスボン委員

皆様、こんにちは。オン・ツー・リスボンは皆様のおかげで、東村山ＲＣ、武蔵村山ＲＣ、東大和ＲＣの合計、最終23名で人数を確定させていただきました。当初25名の予定でしたが、2名程ご都合が悪くキャンセルとなりました。そして、いつもお世話になっておりますＪＴＢの鰐淵さんが添乗員として付いてくれることになりましたので、総勢24名での旅行と、一番の目的である国際大会の交流を楽しんでいただきたいと思います。

報告として、今回の旅行では日本人朝食会は人数もいっぱいということですので、スケジュールから外させていただきました。また、皆様に出席をお願いしておりました石川ナイトの方は、おかげ様で100名に近い出席を頂けることになりました。リスボンの地ですが、今回は2580地区だけの集まりで顔見知りの方もたくさんいらっしゃると思いますので、ぜひ交流を深めていただきたいと思います。地区のオンツーリスボン委員会からは以上です。ありがとうございました。

■歩こう会
野村(裕)会員

先日の「歩こう会」の報告をさせていただきます。3月23日(土)9:00に東村山の停車場の碑に集合して歩きました。当日は暑くもなく、寒くもなく、丁度良い天候でご夫婦3組交えて13名の方でスタートしました。コースは初め、八国山、将軍塚の方へ行き、どこかの将軍が休憩で鎧を立てたということで将軍塚という名前がついたそうですが、そこで写真を撮ったりして八国山の尾根をずっと歩きました。その後は富士登山をしようということで荒幡富士の方へ行きました。その東手が西武園ゴルフ場なので、皆ゴルフ場の中の様子が気になるようで、ゆっくりしたペースで10合目まで登って周りを見ると見晴らしがとてもよく、八国山では見えなかった小手指や田無、スカイツリーの方まで見え、爽快な気分になりました。

一度、私は事前にそこを歩いて、時間配分も考え、9:00にスタートしたら11:30には菊水亭に到着するかな、と予測していたのですが、先導して頂いた野澤会員が「あまりスローペースでは運動にならない」と、いつものウォーキングのペースで引っ張っていただいたので、予定よりも早く11:00過ぎには到着し、菊水亭の開業時間から即、席についておいしいビールやお酒が飲めたところで無事、終了しました。

今回は私と田中会員が幹事を務めさせていただきましたが、次回はどこに行こうという話になり、ぜひ近くではなく遠くへ行こうという話になりました。今度は相羽会員を中心に6月8日(土)に御岳山登山に決まりました。細かいコース等はまた後日になると思いますが、青梅ロータリーの会員の金井さんのところで、精進料理を楽しませて頂こうということで計画しております。ケーブルカーに乗るか、健脚の方は歩いて登るか、いろいろコースを楽しんで登ってから精進料理を味わって一日を過ごそうということになっておりますので、ぜひその日をスケジュールに組み込んで頂きたいと思います。多くの方の参加をお待ちしております。よろしくお願い致します。

■3分間スピーチ

■発表者紹介：
山本職業奉仕委員長

皆様、こんにちは。今日は嶋田会員にお願いしておりますが、皆様のご協力のおかげで3分間スピーチもあと8名ということで、順調に予定通り6月の半ば頃には終わると思います。その後、小冊子にまとめさせていただいて、皆さんのお手元にお渡ししたいと考えておりますので、まだお話でない方はよろしくお願い致します。

今日は嶋田会員から少し苦言を呈して下さるということですので、心して拝聴させて頂きたいと思います。

■嶋田会員

3分間スピーチがやっと回ってきました。明日からプロ野球が開幕します。アメリカのプロ野球も31日から開幕します。やっと私も今日、登板できるようになりました。今日ということは練習試合のピッチャーですから、皆さんが打ちやすいように投げなくてはいけないかなと思うのですが、少しカーブを投げたり、フォークを投げたりと3分間では終わらないかもしれないのですが、実は私は監督から7月に予定表をもらって3月14日になっていました。そのつもりで、8か月先ですから安心していましたが、何を話そうかということで、私は8月には話すことは決めていました。東村山の雅楽と舞姫のことを話そうかな、と思っていたのです。そしていよいよ近づいてきて、3月14日の前の週、次は私かなと思っていたら、そこに強力な剛速球投手、我が球団のダルビッシュが登板しました。これは仕方がない、じゃあ次かなと思っていたら、それより前に入団していた松坂投手が出てきて、もともと私は6番か7番で中継ぎかな、と思っていたのですが、それからいくと第三試合ですから5番目か6番目の先発投手になったのかと思っております。実はその時に原稿は書いてありますので、今日は読みません。週報に載せてもらうので読んでいただければと思います。

私もきちんとやるたちですから、決めたことはまず、きちんと守ってほしいと思います。それが延期されるのでしたら、言ってもらいたいと思います。私はきちんとやろうと思っていたのですが、勢いでどんどん進んでしまって、それではロータリーというのは違うのではないかなと思います。みんなきちんとやることはやる、この3分間スピーチもいい加減にやるものではないと思います。確かに、予定は未定です、と監督が言われましたけれども、8か月前から私も予定していたのですから何か一言あってもよかったのではないかと思います。私も皆さんとお友達になってうまくやってきて、こういうことは言いたくないのですが、ロータリーですからきちんとやる、こういう会合と親睦とは別にしてもらいたい、そう思っています。

皆さんに苦言を呈しますよと言いましたけれども、実際にそれをみんなで守るべきところは守る、外れるところは外れる、そういう会合であってほしいなと思います。以上で3分間スピーチを終わります。

東村山八坂神社の雅楽と浦安の舞について

八坂神社の雅楽は大正13年より行われています。野口町の青年団を中心として、農村青年の集団活動の一環として行われました。笙(しょう)と篳篥(ひちりき)と龍笛(りゅうてき)をそれぞれの先生より指導され始まっています。

大正13年3月より稽古が始まり、その年の3月30日に今の多摩湖の溜水式に初の奉奏しております。以来、

今日に至るまで約90年近く続いております。最初、農家や商店の跡継ぎの人達が現在まで受け継いでおりますが、現在は11代の人が継承しております。

浦安の舞は昭和15年2月11日の紀元2600年の紀元節にあたり、時の昭和天皇は日支事変の拡大や世界平和を願う大御心より御製された詩歌『あめつちの　神にぞいのる　朝凪の　海の毎くに　波立てぬ世を』これを元に式典の奉祝雅楽舞として宮内庁楽部長の多忠朝氏が作曲振付けした舞が浦安の舞です。時の女子青年団の人達が、大国魂神社に通い習得し15年11月に八坂神社に奉舞したのが浦安の舞の始まりです。現在は13代の舞姫の人が継承しております。

昭和37年3月に雅楽振興会が発足しております。後継者育成と保存を目的に作られて現在に至っております。昭和44年3月には東村山市より技芸無形文化財の指定を受けております。

最大の難点は後継者の育成です。後継者がなかなか見つかりませんが、なんとか今日まで続いているのが現状です。舞姫の育成につきましても、昨年の8月に養成をし、17名の子供たちが今年の元旦祭より出演しております。以前は成年女子でしたが、現在は小学生を中心に行われています。

■卓話

■卓話者紹介：
相羽プログラム委員長

皆さん、こんにちは。今日卓話をお願いしました萩本功さんは、欽ちゃんのお兄さんです。欽ちゃんは6人兄弟の6番目、萩本さんは長男です。

私は萩本さんとは10年来のお付き合いをさせて頂いて、倫理の方でもよくお会いしているのですが、9年前に肺がんになられて手術もできないとのことで、余命3か月と言われ、昭和病院に入院されていて私が行った時には、非常に痩せられていて、もうだめかと思うぐらい病状は悪かったです。それが足やひざにも転移して、手術されたりして克服して、車いすで動かれていた時期もあったのですが、今は杖はついておられますが、日本全国どこへでも講演して回られております。

6月には86歳になられるということですが、非常に元気で活躍しておられます。今日は『医者に見放された癌を克服して9年』というテーマでお願いしました。萩本さん、よろしくお願い致します。

■卓話者：萩本功様

こんにちは。弟の名前が出てくると、兄の私は芸人ではありませんのでしゃべりにくいものです。でも兄弟はたくさんいた方がいですね、一人くらいは弟みたいなのが出てくる、成功したからいいようなものですが、していなければ養わなくてはいけないですね。

私は小さい頃から貧乏の家でずっと育ってきました。欽一は貧乏が嫌で、絶対に俺は金持ちになる、と言って大きくなりました。いろいろ調べたら俳優が一番金持ちになれるということで、「お前のその顔で俳優になれるわけがない」と言ったのですが、当時は榎本健一などの有名人もいて、「この顔だって俳優になれる」と本人は言っていました。すぐに諦めるだろうと思っていましたが、同じ劇団の坂上二郎さんに会ったことがきっかけで、とんとん拍子にうまい具合に行き、二人でああいう世界を作ったわけです。

私は若い時から大病を患い、今度で4度目でした。全部医者に見放されていて、最初は小学校1年生の時の急性肺炎で、当時は今みたいにいい薬がありませんので「この子は今晩一晩もたないでしょう」と言われたのが、もっちゃいました。

2度目は大変ひどい蓄膿症で、このおかげで私は兵隊に行かなくて済んだのですが、兵隊の検査を受けると私の体では軍隊の仕事はできない、ということでどうしても採用されませんでした。そのうち、東京大空襲に遇い、その時は警察官をしていて東京のど真ん中で災害に会ったのですが、蓄膿症を診てくれた71歳の医者が「君の蓄膿症は普通の蓄膿症と違って絶対に治らない。どうだろう、戦争もひどくなってきて、こんなひどい蓄膿症の手術をすることはもうできないかもしれない。どうせ君も半年、長くても1年そこそこで死ぬから、私に命を預けてくれ。」と言うんです。変な先生だな、と思ったのですが「考えてみます」と言って親に相談したら「お前が決めるべきだ」と言うので、もしかしたら成功するかも、と思い、私は先生に手術をお願いしました。その先生は「死んでも文句いうなよ」ということで手術してくれ、その時の病院には私が一人だけ入院しており、先生がつきっきりで診てくれ、奇跡的に治り、今もこんなに元気です。

肺がんになった時には、全然分からなかったのですが、倫理の本部から鹿児島に行ってくれと言われていて、行く当日の朝、足が痛くて痛くて仕方がない、でも約束しているものだから足を引きずって鹿児島に着きました。次の日の朝、講演を済ませ、羽田に到着、夜8:00頃家に着くなり、バタッと倒れこみ、救急車で日赤病院に担ぎ込まれ診察を受けました。右手も痺れ、息子は「絶対に脳梗塞だ」と言うので真夜中に検査してもらいました。先生は笑いながら「この患者は脳梗塞ではないですよ。何しろうるさくて仕方がない。明日にでも主治医に見てもらいなさい。」と息子に言ったそうです。脳梗塞というのは、最初に口にきます。いつもとしゃべり方が違うと思ったら、皆さんも病院に行って診てもらった方がいいですよ。

次の日、診てもらったらそれが肺がんだったのです。何しろ足は痛く、手は痺れているのですが、咳も出ないし、胸も痛くないのになぜ？と思ったのですが、レントゲンには黒い影が写っていました。それからすぐに入院ということになり、病室を用意してくれました。昭和病院の私の部屋のある6病棟は、肺の患者ばかりで、私は隅の二人部屋に入れられました。あとで看護婦さんに聞いたのですが、そこは死を待つ人が入る部屋だと言われ驚きました。すぐに家族、親戚、兄弟みんな呼んでくれと言われ、息子が先生の説明を聞いた後に部屋に来て「お父さん、秋には治るらしいよ」と言いました。私も薬の関係の仕事もしていますし、息子は薬剤師ですから、薬のことは多少は分かります。直観的におかしい、普通ではないぞと思っていたので本当のことを教えろと詰め寄ると、秋まで持たないと言うのです。私が入院したのが6月ですから、9月には死ぬだろうと言われ、私はその日から心を改めました。

残された日は少ない、どうせ死ぬのなら何かいいことをしなくては、と思い、それまでの2～3日は週刊誌や新聞を読んで過ごしていたのですが、私は倫理を勉強していたので、倫理の本を引っ張り出して読み、自分の人生を振り返り、悔い改めました。

放射線治療を受けて1か月後のレントゲンでは、影がだんだん小さくなってきました。原因は分かりませんが、いつも私が行くと先生が首をかしげるのです。40数年、肺の

医師をやっていて一度も予測が外れたことはないらしく、先生が秋には必ず死ぬと思っていた患者の癌が小さくなりだしたそうなのです。実は、入院した人の70％は退院するらしいです。残りの30％の人が死ぬわけなのですが、先生は私を残りの30％だと思っていたようです。

先月末、久しぶりに病院で精密検査をしてもらいました。「その年で、いい体をしているね、一か所も悪いところはないよ。」と言われ、血液検査もすべて問題なく、今では有名になって奇跡の男と言われています。いまだに先生もなぜ治ってきたか分からず、日増しに小さくなってきて、今は消えました。ただ、消えなかったのは、足に転移したのです。なぜ転移したかというと、先生いわく、指の神経は肩を通っているんです。肩にも癌ができたから、癌が大きくなって下の神経を全部押して上に出てきたから、そこで切れた形になり、でも他が治ったから手も必ず治ると言われていましたが、いまだに治りませんね。足は、先生が手術しないとダメだということで、都立駒込病院を紹介してくれ、今もそこに通っていますが、入院した次の日にはすぐ手術しました。今、右足は義足です。切断したので、金属が入っています。私が今日、テーマでいただいた奇跡的に治った病気というのは、何しろ先生が分からない、病気になった本人にはわかる訳がない。それでも自分なりに勉強しました。

妻の話をしますと、妻は平成4年に60歳で亡くなりました。55歳に若年認知症という、若い人には珍しい病気にかかりました。最初、応接間で私がお客様と話をしていたら「お父さん、話があります」と入ってきました。「お客様と話しているから後にしよう」というと「今でないと困る」と言って、私の隣に座るんです。何を言うかと思っていたら「お父さん、すみませんが離婚してください」と今まで言ったこともないのに離婚しようと言うのです。私も武蔵野には知り合いがたくさんおり、市長も萩本さんの奥さんだということで、いろいろ病院を探してくれたりするのですが、年が55歳なものですから、どこの病院も分からないということで、最終的に見つけてくれたのが若年認知症という病気でした。何しろ認知症の中でも、一万人に一人いるかいないかの病気にかかり、60歳で亡くなりました。私は5年間一人で、痴呆症ですから何を言うか、何をするか分からないような子供に返った妻の面倒を見ました。お手伝いさんも入れたのですが、面倒を見させてくれないし、息子がごはんを作ったら「私のことを殺す気でしょう」と、私しか信用しないのです。しかし、私も会社のトップでしたから、朝に昼に夜に、時々帰って妻の面倒を見ながら見送ったわけです。そしてその後、私もこんな病気にかかってしまいました。

私が考えたことには、どんな病気にも必ず前兆があるのです。私の足が痛くなったり、手がおかしくなったり、肝心の胸はなんともなくてもそういう前兆がありますので、ばかにしないで医者にかかることが大事です。今、私の体は30歳代だと医者に言われます。手足はこうですが、元気です。私の母は101歳で一昨年に亡くなりました。せっかく与えられた体ですからなんとか生きているうちは頑張りたい、母が101歳ですから、私は母を超えたいなと思っております。

また、どうしてこういう病気にかかったのかと考えるときに、人間というのはいつも明るく生きることが大事です。怒ったり、怒鳴ったりというのは、発散されているようですが体によくないのです。だから、倫理では明朗という言葉で教えますが、明るく朗らかに過ごすこと、また、我慢することなのです。私は歩くのが不便ですから、ゴミ御殿ではありませんが、周りに自分の荷物や着替えなど手の届くところになんでも置いていて、アイロンなども全部自分でやります。息子の嫁がおりますが、「リハビリになるから自分でやったら」と言われます。でも考えてみるとそれがいいのかもしれません。大事にしてもらいすぎると、あの世から「お前もう満足だろう」とお呼びがかかると思います。

4つの大病の一つですが、胃潰瘍で胃を全部取ってしまいました。ひどくなっていたので医者が「よくこれで生きていたな、胆のうが全部死んでいる、十二指腸もダメだったから全部取っておいたから」と言い、昭和43年厄年で、もう死ぬのかなと思っていたら、これも治ってしまいました。先程も、うどんを頂きましたが、全部平らげました。

ご年配の方は特に病気をされるとガクッときてしまうのはよくないですし、今の若い子供は自殺したりしますが殺してはいけない、あの中に未来の総理大臣がいるかもしれません。死ぬだけの度胸はあるんです。私には理解できませんが、子供がそういうことを考えるのは親の責任です。絶対に死んではいけません。私みたいにこうやってなんとか生きてきたら、この年で講演にも呼んでもらって話を聞いていただいて、本当に幸せな男だなと思います。今は長生きしてよかったなと思っています。今はテレビがありますから孤独になりそうだったらテレビを一生懸命見れば勉強になります。

私は貧乏で小学校しか出させてもらえませんでしたが、弟たちはアルバイトしながら大学へ行った子もいます。欽一は高校まで出ました。欽一とよく話すことがあります。「兄ちゃん、運と奇跡というのはあるんだよな、うちの俳優でも売れないやつもいれば売れるやつもいるしな。」欽一が新入社員を採用するとき、運のないやつは入れないと言います。あの柳葉敏郎くんは今は大変な売れっ子ですよね。柳葉くんは、1000人の応募からたった一人を決めるときに、10人だけの選考に残り、10人に「後で電話するから」と言ってみんな家に帰し、1時間後にスタッフを集め「さっきの10人に電話しろ」と言って家にいたのが柳葉くんだけだったのです。あとの9人は家に帰っていなかったため「柳葉くん、採用」ということで「まだ芸がいいかどうか、何も分からないじゃないですか」というスタッフに欽一は「いや、運がいい、1000人の中でたった一人残るなんてこんな運のいいやつがいるか」そして今、トップスターです。「僕が今日あるのは二郎さんのおかげ」と欽一は言います。二郎さんがいないから、今は気の抜けたサイダーみたいですが、そのうち治ると思います。

「俺は運がない、ダメだ」という人がいたら、言ってやってください。「運は必ず死ぬまでに1回や2回ある、もしなかったらそれは早くにあったんです。もう通り過ぎちゃったんだ」と欽一は言います。オーディションにじゃんけんで勝ち抜いた人もいるんですよ。また、欽一は芸は絶対に教えません。芸は自分で探して自分で作り、自分でやるものだ、と。弟も珍しい師匠ではありますが、彼のお弟子さんからは有名人がすごく出ています。

だから、皆さんも運と奇跡を大切にして、どんなにダメだと思っても努力して一生懸命頑張ってください。また、奥さんを大事にしてください。奥さんは他人ですが、その他人の奥さんだけが、が共に苦労してくれるのです。そしていつも朗らかであってください。また、我慢すること。この我慢を母に教わり、私は今日まで生きてきました。皆さんはこの三つを守って下さい。本日はありがとうございました。

■点鐘：中丸会長